

第10回「演習課題への挑戦(3)」

今後のスケジュール

- 第10回 (2010-06-23) 「演習課題への挑戦(3)」
 - レポートのタイトルを決定し、レポートの方針を決める。
 - タイトルを決定するのに必要な資料や情報を収集する。
- 第11回 (2010-06-30) 「演習課題への挑戦(4)」
 - レポートのタイトルを決定し、レポートの方針を決める。
 - 必要な資料を収集し、レポートを作成する。
- 第12回 (2010-07-07) 「学習成果の表現方法について」
 - 自分のレポートを作成し、添削を受ける。
 - 自分のレポートについて、プレゼンテーションをレジюме(下書き)を作成する。
- 第13回 (2010-07-14) 「成果の発表(1) 文書や口頭」
 - 自分のレポートを完成する。
 - 自分のレポートについて、プレゼンテーションの練習をする。
- 第14回 (2010-07-21) 「成果の発表(2) 文書や口頭」
 - プレゼンテーションを相互評価する。
 - プレゼンテーションの内容を見直す。
- 第14回 (2010-07-28) 「成果の発表(3) 文書や口頭」
 - 自分のレポートについて、最終のプレゼンテーションをする。

レポートを書く（実践編）

タイトルの決定から資料の収集へ

1. 問題提起

- テーマについて、社会的な問題点や疑問点などの具体的な事柄、また自分が明らかにしたいと思う事柄を明確にする。
(大きすぎるテーマ、専門的すぎるテーマは避ける)

2. 仮説の提示・主張

- それらの事柄への対応策・解決策に関する自分なりの考えを仮説として述べる。また、調査や研究の方針があれば示す。

3. 主題(表題)の決定

- 問題提起や自分の仮説(主張)をもとに、主張や内容が伝わる、具体的なタイトル(レポートの題目)を考える。

4. 資料の収集

- 問題とした事柄や自分の仮説(主張)を裏付けるような、資料を収集する。

5. テーマの再検討

- 集めた情報から、テーマを絞り込んだり、考えなおしたり、再検討する

大まかなテーマ	「子どもと携帯電話（ケータイ）」または「学校と携帯電話（ケータイ）」
具体的なタイトル （疑問文で）	
問題提起	
自分の主張（結論）	
主張の理由 （資料などにもとづく根拠）	

レポート作成の手順

たとえば、2週間程度で書く場合は、次のようなスケジュールになる

1. 大まかなスケジュールを立てる(1日程度)
2. 話題(テーマ)を絞り込み、レポートでの主張を決める(5～6日程度)
 - 資料を集めて整理する(3～4日程度)
 - 全体の構成やアウトライン(骨組)を決める(1日程度)
3. レポートを執筆する(1週間程度)
4. レポートを推敲する(1日程度)
5. レポートを提出する

レポートの構成の例

- 1. 序論(はじめに、など)
 - 背景の説明、問題提起、自分の主張の提示
- 2. 本論
 - 提起した問題の現状などを説明
 - 専門用語を解説(必要に応じて)
 - 自分の主張にあった事実・出来事・対策などを説明(必要であれば引用も)
 - 反対意見を想定してみ、それに対する解決策を説明
 - 自分なりの意見を、論理的に説明
- 3. 結論(まとめ、おわりに、考察、など)
 - 全体を通して、自分のをまとめる
 - 具体的な提言や、今後の課題などがあれば述べる
- 参考文献
 - 引用した資料や参考にした資料を提示

参考文献

- 学習技術研究会編著「知へのステップ 改訂版」, くろしお出版 (2006.10).
- 石坂春秋「レポート・論文・プレゼン スキルズ」, くろしお出版 (2003.03).
- 佐藤望編著, 湯川武, 横山千晶, 近藤明彦「アカデミック・スキルズ」, 慶応義塾大学出版会 (2006.10).
- 小笠原喜博「大学生のためのレポート・論文術」(講談社現代新書 1603), 講談社(2002.04).
- 河野哲也「レポート・論文の書き方入門 第3版」, 慶応義塾大学出版会 (2002.12).